



保育士は「人間の根っこを
育てる」仕事です

光沢寺保育園
保育士

岩尾 大輔さん

1 「保育士を目指したきっかけについて教えてください。」

私には弟がいたのですが、弟は私が保育園の時に亡くなりました。環境が変わり、不安だった私を受け入れてくれたのが保育園の先生でした。そこから保育園の先生が、自分の中で大きな存在になりました。

中学生の頃、北九州市の人権関係の団体でボランティア活動に参加しました。その体験をきっかけに、「私は人と触れ合うことが好きだな」と感じました。さらに、高校時代、たまたま教室の窓から男性の幼稚園の先生が働いているのが見え、「男の人も幼稚園の先生になれるんだ」と知りました。高校に保育士の資格をもつ男性の先生もいたため、色々なことが重なって保育士を目指そうと心に決めました。

2 「光沢寺保育園で保育士として働くまでの道のりを教えてください。」

私は、1999年に保育士の資格を取って東京で働き始めました。その後、地元に戻り小倉南区の保育園に4年半勤めたのですが、保育園は男性の働く場所なのか、女性の働く場所なのかとすごく悩みました。そこで、保育園を辞めて大型ショッピングセンターで働き始め、ベビーコーナーの担当となりました。ここでは保護者の立場を学ぶことができました。

そんな仕事の中、ある時自分が四季の変化に何も感じなくなったことに気付きました。保育士の仕事で、私が良いと思っていたことのひとつが「四季を感じられること」でした。そこで、保育士に戻ることを周りに相談したら、光沢寺保育園で働かないかという話をいただきました。そして、もう一度保育士となり基本に戻って勉強しようと思い光沢寺保育園に入りました。

3 「普段行っている業務について教えてください。」

普段はもちろん子どもと遊ぶこと、保育ですね。

子どもの心や体などを育てるだけではなくて、保護者の応



援をしながら、地域の方と繋がりを持って、その架け橋になりたいと思っています。



4 「男性保育士として性別の壁（男性と女性の違い）にぶつかったことはありますか？」

0歳児を受け持ったときに、子どもが泣いてしまいました。でも、女性の保育士がぱっと抱っこすると泣き止むのを見て、「何がいけないのだろう」と原因が分からず悩みました。この時、女性には女性の柔らかい感触があり、男性には男性の役割があるのかなと初めて感じました。子どもにとってどうなんだろうと思った時に、女性との違いにぶつかったと思います。

最近では、保護者支援でお母さん方と話す時、妊娠されている方や体調を崩されている方と話す時は、男性一人で話すよりも女性の保育士を必ず入れるようにしたり、自分は席を外して女性の保育士に任せたりするなど、その時の状況に応じて、女性の保育士に協力してもらいながら調節してやっています。

男性と女性の役割に違いがあって良いと思います。しかし、「女性だから」、「男性だから」ということはあまり意識しすぎないで、「自分らしくいること」をいつも意識しています。

5 「男女がともに活躍するために必要なことは何だと考えますか？」

お互いを一人の人間として見て、認め合うことが大切だと思います。自分らしく生きるという気持ちを自分の中でしっかりもっていれば、どんな難しい問題にぶつかっても自分の考えを信じていけるはずです。そのためには周りの人を受け入れて、違いを認める気持ちを忘れないことだと思います。

あまり友達が多くななくても、「苦しいな」と思った時に相談できる人が一人でもいたらいいと思っており、子どもたちにもそう伝えていきます。

6 「小学生に向けてメッセージをお願いします。」

保育園では、子どもは遊んでいるだけではなく、遊びながら色々な事を学んでいます。私たち保育士は、次の日本を支える人間を育てるといって、大切な役割があると思っています。

保育士の仕事は「人間の根っこを育てる」と言われているので、その根っこを大事に育てれば大きな幹も育つと思っています。その幹の根っこの一部に自分が関わっているので、とても大切な責任のある仕事をしていると思っています。周りの人を信じて、「人が好き」と思えるような大人になれるように、一歩ずつがんばってほしいと思います。